



熊本県版

No. 237

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

沖縄 那覇

虎

あけましておめでとう!!



2022.

運動の基本

- 一、 治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
- 三、 国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

6月の第40回全国大会をめざし

200人の県同盟建設を一日も早く!

熊本県本部会長 小田憲郎

あけましておめでとうございます。

今年、治安維持法制定から97年、その治安維持法の最大の標的にされ、多大な犠牲者を出した日本共産党が創立されて百年です。治安維持法国賠同盟は2019年の第39回全国大会で治安維持法が制定されてから百年を迎える2020年代を「治安維持法体制に決着をつけ、2度と戦争と暗黒政治への逆戻りを許さない年代」にすることを決議しました。

この2年間に安倍政権、菅政権が倒れ、岸田政権が誕生しましたが、先の総選挙で改憲勢力がひきつづき3分の2を確保し、そのうえ議席を増やした維新の党と国民民主党に煽られるように「敵基地攻撃能力の検討」を所信表明演説で表明

し、軍事費を6兆円の大台に乗せるなど「改憲」「大軍拡」に前のめりで突き進んでいます。とくに憲法改悪について岸田首相は任期中の改憲を公言し、自民党の改憲推進本部を改憲「実現」本部に変え、その第1回会合に岸田首相自らが出席して改憲の号令をかけるなど改憲姿勢を露骨にアピールしています。

こうした改憲勢力の策動にストップをかけるためには、先の総選挙で威力を発揮した「市民と立憲野党の共闘」をより一層強化し、今年夏の参議院選挙で改憲勢力を3分2以下に抑え込むことがどうしても必要です。

そのために国賠同盟としては、第39回大会で決めた「次期大会までに2万人の同盟建設」を何としてもやり上げなければなりません。

全国2万人に対応する熊本県同盟の目標は2000人です。前大会時172人だった熊本の現勢は現在190人（12月25日現在）で、目標達成まであと10人です。一日も早く2000人を達成し、さらに前進して全国の目標達成に貢献しようではありませんか。

4月から映画『伊藤千代子の生涯』全国上映スタート！

国賠同盟が全面支援して製作が進められてきた映画『わが

ています。

1月には、全県規模の上映実行委員会の結成も準備されています。

全国的には、上映実行委員会を広く組織し、その中心になって奮闘している治安維持法国賠同盟の姿にはじめて触れ、同盟に加入してくれる人が増えているのが特徴です。

「2万人の同盟建設」と「伊藤千代子の上映運動」を車の両輪とし、かつ、一体のものとして統一して取り組み、ともに成功させましょう。

またそのなかで、これまでつながりのなかった人との接点も大いに広げ、「国会請願署名」も大きく成功させましょう。

人吉くま支部定期総会開く

「伊藤千代子」実行委員会結成も確認

人吉くま支部は12月20日、今年度の定期総会（第7回）を開催し、あわせて映画『伊藤千代子の生涯』上映実行委員会の結成も確認しました。

総会では久保田武治支部長が総選挙の結果、憲法をめぐる

青春つきるとも「伊藤千代子の生涯」がいよいよ3月には完成し、4月から全国一斉に上映運動がスタートします。

伊藤千代子は治安維持法によって命を奪われた「最初の治安維持法犠牲者」であり、我が同盟にとっては特別の意義をもつ人です。東京女子大4年の時、社研（社会科学研究会）を組織し、戦争も貧困もない平和な社会、誰もが人間として尊重され自由で平等な社会、とりわけ女性が人間として尊重されるジェンダー平等の社会をめざして非合法の日本共産党に入党。しかし入党の半月後、23歳で悪名高い「3・15大弾圧」で検挙、投獄され激しい拷問にさらされました。しかし伊藤千代子は拷問にも屈せず、節を貫いて翌年、24歳の若さで獄死させられた不屈の革命家です。

アベ・スガ・岸田政権のもとで特定秘密保護法、盗聴法、共謀罪法、マイナンバー（国民総背番号）制度、戦争法、重要土地利用規制法など治安維持法の内実がつぎつぎと復活、法制化され戦前回帰が強引に推し進められている今日、千代子のたたかいが私たち、とりわけ千代子と同じ若い世代に教えるところは極めて大きいものがあると思います。

熊本でも多くの人たちに観てもらうためにすでに上映債券を4口（4回の上映権）確保し、さらに広げる計画をすすめ

情勢が緊迫し、国賠同盟の果たすべき役割がますます重要になっていくと強調し、同盟をもっと強く大きくすることをよびかけました。

ついで小田憲郎県本部長が総選挙の結果について、マスコミや連合などが盛んに「共闘失敗」と共闘攻撃を強めているが、「市民と立憲野党の共闘」は目標とした政権交代を実現することはできなかったが、1議席を争う小選挙区で自民党の現職幹事長や元幹事長など大物に打ち勝つなど59選挙区で勝利し、多くのところで接戦に持ち込むなど大きな成果を上げたと指摘。とくに連合が、「立憲民主党は共産党と組んだから票が逃げて負けた」「共産党と手を切れ」と執拗に迫っていることについて、「事実とは全く逆だ」「立憲民主党は前回（2019年）の54議席に比べ今回は96議席獲得して42議席も増やしており、それも共闘で立憲の候補者に一本化し、共産党など他の野党の強力な後押しがあったからこそあれだけ議席がとれたのであって、共闘しなかったら散々だったろうと強調。同時に、野党が勝てなかったのは、「共通政策」の協定成立が直前までずれ込んだこと、しかも選挙直前の最も大事な一か月間、マスコミが「自民党総裁選一色」に塗りつぶされ、野党の「共通政策」はほとんど無視され、その素晴

らしい内容が有権者に十分浸透しきれないまま選挙戦に突入したこと、さらに共闘した野党の側にも連合や一部マスコミの激しい反共攻撃などの前に腰が引け、4野党党首がそろって「野党連合政権の実現」を熱烈に訴えるなどの場面が一度もなかったことなど有権者に「政権交代の本気度」がいまひとつ伝わらなかつたなどの弱点があつたことなどを指摘し、22年7月の参議院選挙に向けては「市民と立憲野党の共闘」をいっそう強め、32あるすべての一人区で候補者を一本化し参議院での改憲勢力3分の2を何としても阻止しなければならぬと強調しました。

当面する同盟活動ではとくに、①22年6月の同盟の第40回全国大会までに全国2万人、熊本県200人の同盟にする目標を必ず達成すること、②3月に完成し、4月から全国一斉上映運動が始まる映画『わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯』上映運動を必ず成功させることを訴えました。討議の中では、同盟員拡大で熊本県の到達が189人で目標まであと11人と迫っているという報告を受け、年内に190人、年明け早々に200人を達成するために人吉くま支部もぜひ2人は拡大することを確認しました。

またこれまで目標があいまいで「出来ただけ」でとなつて

いた国会請願署名について、1人10筆、支部として250筆を目標に取り組むことになりました。

映画『伊藤千代子』については、人吉くま支部ではすでに上映債券を1口確保し参議院選挙後の秋ごろの上映を考えていたようですが、国賠同盟の40回大会に向けた同盟拡大運動及び7月参議院選挙の力にするという中央本部の方針を受け、早急に行行委員会を立ち上げて4〜5月上映をめざして取り組みを急ぐことを確認しました。

事務局より

▽ 中央本部より試写会招待券が5枚届きました。

映画は『母』の山田火砂子監督の最新作『われ弱ければ―矢嶋楫子伝』です。1月8日(土)午後2時(予定)、熊本城ホールとなっています。ご希望の方は事務局までご連絡ください。希望者多数の場合はこちらで抽選とさせていただきます。なお締め切りは1月5日とします。対象は同盟員に限らせてください。
(090・1366・5004 関根)

▽ 本部『不屈』年始広告にご協力いただきました民主団体の皆さん、ありがとうございます。(中央『不屈』参照)
今後ともより一層の連帯協同を発展させるべく奮闘します。